

[研究ノート]

## 保育所における音楽表現に関する一考察 —アンケート調査による結果より—

原 浩美

A Study on musical expression in daycare  
—From the result of questionnaire survey—

HARA HIRAMI

“The national curriculum guidelines for kindergartens (yoshuen)” , “the childcare guidelines for daycares (hatchuen)” and “the education and childcare guidelines for authorized kindergartens/ daycare combined facilities (yoshienso)” were revised and publicly notified in 2017 and then came into effect on April 1, 2018. Under these guidelines, standards for early childhood education were defined for daycares as well as kindergarten/daycare combined facilities. The criterion was significant in differentiating objectives for three different developmental stages. These developmental stages are: care for infants (under 1 year old), for toddlers (older than 1 year old and under 3 years old), and for children over 3 years old. This criterion will provide the opportunity to further study children’s learning processes which occur from the infant stage, and to refine contents of care guidelines for the different developmental stages.

We have conducted a survey among daycare directors on whether each daycare facility has their own policy in accordance with the new child care guidelines. In this study, we focused on the subject of ‘expression’ , a component of the care guidelines. The survey also questioned care providers on whether the songs they teach are according to the new care guidelines.

**Keywords:** The new childcare guidelines for daycares, “Expression” as a component of the childcare guidelines, Daycare policies, Children’s songs

**キーワード:** 園・保育所保育方針、保育内容「表現」、保育例（園）のメニュー、子どもの歌

### 1. はじめに

平成 20 年に告示・政官され、平成 20 年 4 月 1 日から施行されている「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」とも関係する「保育指針」で、幼児教育が保育所の認定こども園の保育にも同様に対応づけられた意義は大きい。そして、幼児保育と 1歳以上3歳未満児の保育のねらいと内容が3歳以上児とは分けて示されたことである。このことにより保育内容は乳児園からの学

びを考えたことになり、今後ますます発達段階に応じた保育内容を考えていくことになるだろう。

ただし、今回の告示では、領域「表現」のねらいや内容そのものに変更はなかった。

それでは、私立保育所（園）において所（園）長はこの保育所保育方針に目を通し、実際に実態を生かしていかうとしているのであろうか。

また、保育士はこの新しい保育所保育指針をどのように捉えているのであるだろうか。領域「表現」の観点からみていくことにする。

そこで先般において筆者が関わっている、あるいは関係のある4保育所（以下保育所を個別に明瞭にする）<sup>1)</sup> についてアンケートによって調査を行った。

## II. 研究目的

1. 各園では、新しい保育所保育指針に従って、それを保育現場でどのように生かそうとしているのだろうか。保育内容「表現」という観点から、園としての音楽表現活動に関する目標や重点となる課題としてのキーワード（以下キーワードと記述する）をもっているかどうかを明らかにする。

2. 保育士は、この保育所保育指針に対応した子どもの歌を歌わせているかどうかを明らかにする。

## III. 研究方法

1. 先般において筆者が関わっている、あるいは関係のある4園について、保育所（園）長にアンケート調査を行い、各園での、保育目標および保育内容「表現」に関わるような音楽表現活動に関するキーワードの有無、目標などにおける及び保育指針の内容を調査しているかどうかについて分析した。

2. 4園の保育士 80 人に子どもに歌わせた10歌り曲以内を選んで記入してもらうと共に、各保育士の年齢、経験年数、受け持っているクラスを記入してもらい、年齢や経験年数、受け持つ子どもの年齢による選曲に相違的な傾向があるのかを調査した。

## IV. 結果

結果1. 保育内容「表現」という観点からの保育指針としてのキーワード

例（園）長の回答による保育所（園）での保育目標および音楽表現活動に関する各園としてのキーワードは表1のようになった。これを見ると、各園での保育目標の中に、保育所保育指針における保育内容「表現」の内容に

基づいたようなキーワードが掲げられていることが読み取れる。

たとえば、B園では、「表現する過程の中で、子どもが表現しようとする思いを肯定的に受け止めることで、表現する喜びや自信を育むことを大切にしている。」とあるが、保育指針の3歳以上の保育における「表現」の内容の指針①②の「子どもの自己表現は創造的な形で行われることが多いので、保育士等はそのような表現しようとする意欲を受け止めて、子どもが生活の中で子どもらしい様々な表現を楽しむことができるようにすること」に対応したものである。また、「歌ったり演奏したりしながら、感性を育む。」は3歳以上の保育における「表現」の内容的に「音楽に関し、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどできる楽しさを味わう」に対応したキーワードといえる。

F園では「いつも音楽が身近にある環境を心掛けていく」と目標の中に音楽を謳っているが、保育指針の（ウ）内容の趣旨に①「豊かな感性を、身近な環境と十分に関わる中で育むための、優れたものを、心を動かす刺激などに出会い、そこから得た感動を曲の子どもや保育士等と共有し、響きに表現することなどを通して育まれるようにすること。」と謳われるとともに自然の中での音、形態などに気付くようにすることとなっているが、F園における音楽が身近な環境の中にあることも、感性を育むには大切な要素であろう。②、③についても、オ表現「感じたりことや考えたりを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」など、指針の内容を踏んだものとなっている。

F園の④の項目も同様にオ表現「感じたりことや考えたりを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」という3歳以上児における条件のなかに当てはめたものとなっている。⑤の「人との感情や信頼感を育て、自主・協調の態度を培う」に関してはその自主と同じ項目はなっていないが、乳幼児における（ア）あるは

⑤「最近を元と楽しみ、開けりを開め、愛情や信頼感が芽生える。」とあるように、乳児期から保育士による人間関係、コミュニケーション力を築いている。

⑥面では、「まずは音を感じると楽しさを味わおうこと」を重視しており、3歳以上児においては(中)内容の歌数(①F) ②の音楽性(④、⑤)の両面と十分に開かせる中(⑤)見られる。開かれたもの、心を動かす回数率などに違いは、そこ

から開かれた面を他の子どもや保育士等と共有し、開かせる展開することなどを通して開かれるようにすること、その際、他の保育士の声、音感にある開き等の影響などを自然の中にある音、歌、音などに気付くようにすること、」など両面を開き発達させることの両面が述べられてはいるが、まさに音感を通じてよりよするキョウが音楽という経験を味わって行うことを積極的に促しているといえる。

表1. 保育目標及び音楽表現活動についてキョウ

①面	①表現する過程の中で、子どもが表現しようとする思いを自然に受けとめることで、表現する喜びや自信を育むことを大切にしている。 ②子どもたちにとって「歌はもたらし、歌ったりを自覚しきたしながら、音感を感じるだけでなく、音感との心のつながり、絆、再会をりまでつながるものだと考える。
F面	①いつも音感が表現による展開を心掛けていく ②音感を通しての豊かに、音感を通して豊かに自分を表現できるようにしてはいるが、音楽の中身をを通して音感と一緒に歌う楽しさ、表現を育てる楽しさ、友達の声や音感聞いて自分を感じる楽しさを感じてほしい。
③面	①豊かに音感を通して音感の存在を知る ②人との音感や音感を育て、音楽・音感の豊かさを育む。
④面	①手に表現することが目的ではなく、まずは音感を感じると楽しさを味わおうことを重視している。

結果3. 保育士が歌に接している『子どもの歌』

表2. 子どもの歌に接している曲 (⑤面以内の複製回数)

歌	曲名	数	歌	曲名	数	歌	曲名	数
1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	32	33	34	35	36
37	38	39	40	41	42	43	44	45
46	47	48	49	50	51	52	53	54
55	56	57	58	59	60	61	62	63
64	65	66	67	68	69	70	71	72
73	74	75	76	77	78	79	80	81
82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99
100	101	102	103	104	105	106	107	108
109	110	111	112	113	114	115	116	117
118	119	120	121	122	123	124	125	126
127	128	129	130	131	132	133	134	135
136	137	138	139	140	141	142	143	144
145	146	147	148	149	150	151	152	153
154	155	156	157	158	159	160	161	162
163	164	165	166	167	168	169	170	171
172	173	174	175	176	177	178	179	180
181	182	183	184	185	186	187	188	189
190	191	192	193	194	195	196	197	198
199	200	201	202	203	204	205	206	207
208	209	210	211	212	213	214	215	216
217	218	219	220	221	222	223	224	225
226	227	228	229	230	231	232	233	234
235	236	237	238	239	240	241	242	243
244	245	246	247	248	249	250	251	252
253	254	255	256	257	258	259	260	261
262	263	264	265	266	267	268	269	270
271	272	273	274	275	276	277	278	279
280	281	282	283	284	285	286	287	288
289	290	291	292	293	294	295	296	297
298	299	300	301	302	303	304	305	306
307	308	309	310	311	312	313	314	315
316	317	318	319	320	321	322	323	324
325	326	327	328	329	330	331	332	333
334	335	336	337	338	339	340	341	342
343	344	345	346	347	348	349	350	351
352	353	354	355	356	357	358	359	360
361	362	363	364	365	366	367	368	369
370	371	372	373	374	375	376	377	378
379	380	381	382	383	384	385	386	387
388	389	390	391	392	393	394	395	396
397	398	399	400	401	402	403	404	405
406	407	408	409	410	411	412	413	414
415	416	417	418	419	420	421	422	423
424	425	426	427	428	429	430	431	432
433	434	435	436	437	438	439	440	441
442	443	444	445	446	447	448	449	450
451	452	453	454	455	456	457	458	459
460	461	462	463	464	465	466	467	468
469	470	471	472	473	474	475	476	477
478	479	480	481	482	483	484	485	486
487	488	489	490	491	492	493	494	495
496	497	498	499	500	501	502	503	504
505	506	507	508	509	510	511	512	513
514	515	516	517	518	519	520	521	522
523	524	525	526	527	528	529	530	531
532	533	534	535	536	537	538	539	540
541	542	543	544	545	546	547	548	549
550	551	552	553	554	555	556	557	558
559	560	561	562	563	564	565	566	567
568	569	570	571	572	573	574	575	576
577	578	579	580	581	582	583	584	585
586	587	588	589	590	591	592	593	594
595	596	597	598	599	600	601	602	603
604	605	606	607	608	609	610	611	612
613	614	615	616	617	618	619	620	621
622	623	624	625	626	627	628	629	630
631	632	633	634	635	636	637	638	639
640	641	642	643	644	645	646	647	648
649	650	651	652	653	654	655	656	657
658	659	660	661	662	663	664	665	666
667	668	669	670	671	672	673	674	675
676	677	678	679	680	681	682	683	684
685	686	687	688	689	690	691	692	693
694	695	696	697	698	699	700	701	702
703	704	705	706	707	708	709	710	711
712	713	714	715	716	717	718	719	720
721	722	723	724	725	726	727	728	729
730	731	732	733	734	735	736	737	738
739	740	741	742	743	744	745	746	747
748	749	750	751	752	753	754	755	756
757	758	759	760	761	762	763	764	765
766	767	768	769	770	771	772	773	774
775	776	777	778	779	780	781	782	783
784	785	786	787	788	789	790	791	792
793	794	795	796	797	798	799	800	801
802	803	804	805	806	807	808	809	810
811	812	813	814	815	816	817	818	819
820	821	822	823	824	825	826	827	828
829	830	831	832	833	834	835	836	837
838	839	840	841	842	843	844	845	846
847	848	849	850	851	852	853	854	855
856	857	858	859	860	861	862	863	864
865	866	867	868	869	870	871	872	873
874	875	876	877	878	879	880	881	882
883	884	885	886	887	888	889	890	891
892	893	894	895	896	897	898	899	900
901	902	903	904	905	906	907	908	909
910	911	912	913	914	915	916	917	918
919	920	921	922	923	924	925	926	927
928	929	930	931	932	933	934	935	936
937	938	939	940	941	942	943	944	945
946	947	948	949	950	951	952	953	954
955	956	957	958	959	960	961	962	963
964	965	966	967	968	969	970	971	972
973	974	975	976	977	978	979	980	981
982	983	984	985	986	987	988	989	990
991	992	993	994	995	996	997	998	999
1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008
1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017
1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026
1027	1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035
1036	1037	1038	1039	1040	1041	1042	1043	1044
1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053
1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062
1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1070	1071
1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1080
1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089
1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098
1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107
1108	1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116
1117	1118	1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125
1126	1127	1128	1129	1130	1131	1132	1133	1134
1135	1136	1137	1138	1139	1140	1141	1142	1143
1144	1145	1146	1147	1148	1149	1150	1151	1152
1153	1154	1155	1156	1157				

各園では、全保育士に「新保育所音楽教材」読んでおくよう指示をしたり、あるいは研修会を開いたりして内容の把握と、どのように音楽に生かすかを研究している。その中で、各園で働く保育士は、実際に使用された保育所音楽教材に基づいて感想をしているのであるとか、保育所で使われている、あるいは保育士が子どもに歌わせたいとしている曲を、使用する年齢のクラスごと、保育士の年齢ごと、そして保育経験年数ごとに抽選している。全体として、保育士が歌わせたいとしているのは幅広い楽曲で、一人平均約4点楽曲が選ばれた曲を記入している。その中で、新曲人の楽曲があったものが21点とあり84曲で、楽曲では104曲であった。

調査を見ると、全体的には、明瞭な曲に選ばれる曲から、次に、年齢初期として聴覚に選がれてきた曲と約190年間の音楽、新曲、そして子どもの歌が選ばれていることがわかる。

そしてそのいずれの曲もよく知られている曲である。

### ① 各年齢担当の保育士が歌わせたい曲

それでは、次に担当クラスごとに歌わせたい曲を見ていくことにする。

表3が0～1歳児担当の保育士が歌わせたいとした曲である。60人中28人が0～1歳児担当保育士であるが、これを見ると、全体的に最も多かった「おもちゃのチャチャチャ」(1982年)を選んだ19人中11人が0～1歳児の担当である。さらに0～1歳児担当保育士の42%強がこの曲を選んでいる。また「あえるのうた」(加藤トイコ作詞、1980年スイスの音楽家ジャンメルマンによって日本に紹介される)を選んだ全保育士の中の35人中8人が0～1歳児の担当である。曲の中で最も新しいのは、「さくら」(1989年)でアニメ『となりのトトロ』のエンディングテーマ曲としてヒットしたものである。また、『じ』(1987年)もテレビドラマの中で流れるなどして有名になった。同じ、最も古いのは「むすんでひらいて」(1874年)で、ジャンポッター

ン作曲であるといわれている。日本では最初曲楽家として歌われ、その後童謡作家、作家としての地位をひとつの曲も執筆家として定着したのである。

1980年以前の曲としてはそのほか『チャチャ』(1983年)、『あえるのうた』(1980年)、『チューリップ』(1982年)、『うみ』(1981年)がある。

表3. 0～1歳児担当保育士が選んだ曲

おもちゃのチャチャチャ	11
あえるのうた	8
手あそび歌集しよん	7
あのおまわりさん	6
あふすいとれんたあさん	4
しんせいのなな手あそびたろう	4
しんせいの歌	4
チューリップ	3
むすんでひらいて	3
うみ	3
にんせいのうた	3
さくら	2
あひるの村歌	2
あふすいとれんた	2
かみむす	2
はなはなてき歌集	2

次に1歳児担当の保育士が選んだ曲を見てみよう。

表4. 1歳児担当保育士が選んだ曲

あのおまわりさん	4
さくら	4
あふすいとれんた	4
あひるの村歌	3
手あそび歌集しよん	3
アイスタラー	3
あははなてき	3
チューリップ	3
アイアイ	3
あははのうた	3
あふす	2

アンケートに協力してくれた1歳児担当保育士は12名である。「あのおまわりさん」(1980年)、『あふすいとれんた』(1981年)、『おもちゃのチャチャチャ』(1982年)、『アイスタラー』(1982年)、『あははなてき』(1986年)、『アイアイ』(1989年)、『あははのうた』

1902年、「ボーイ愛と恋」、『どうさん』(1902年)と11曲作らせたが1903年～1904年刊に新曲あるいはカットした曲であるものが続発している。この時期は、「パパの恋」が随筆欄の味がかけて、中村喜道、大中重太郎らによって1903年に絶賛された。「子ども達に曲い遊ぶ曲い遊ばせ」が「題名だけで作曲するのではなく、自分なりの解釈のいく曲集」をキッコーに読者各層の好みに一致する点が興味深い。3歳児対象から保育士の人気(3歳児担当)者、4歳児担当も、5歳児担当(各)が異なるので、曲目も少なくなることから、4歳児と5歳児も合わせてみていくこととする。

3歳児担当の保育士が選んだ曲は、2歳児までの保育士が選んだ曲とは明らかに異なっている。2歳児担当保育士が選んだ『アイスクリーム』が同じ曲種、すべて異なっている。しかも表も裏も表紙、裏紙を見ても、4歳児担当保育士と5歳児担当保育士の選んだ『にじ』(同件同じ曲は取り上げられていない。さらに、『動物の歌』や『アイスクリーム』など1900年以降の歌を除き、曲の歌は比較的新しく1900年代以降に作曲されたものが多く、アウフダクトやコンコーションの多用なまはげ、ユーミンの歌風の懐い曲が多く、また全体的に1頁に収まるような長い曲が多くみられる。

表4. 3歳児担当の保育士が選んだ曲

アイスクリーム	3
どんな娘がすき	3
歌はバカバカ	3
そらだったらいのにな	2
甲虫の恋	2
赤・赤・赤	2
すずめがサレバ	2

表5. 4歳児担当の保育士が選んだ曲

にじ	2
動物がなまはげどうさん	2
紅い花の子	2
勇気！ 勇敢	2
ロコップスのお	2
子猫のパン屋さん	2

表6. 5歳児担当の保育士が選んだ曲

にじ	3
ほのぼののうた	2
スニエグニエグまで	2

## 2) 保育士の年齢別による歌分けたい曲

それでは、子どもに歌わせたい曲が保育士の年齢によって異なるのであるならば、20代、30代、40代、50代の保育士が選んだ曲が表れ、表9、表10、表11に示してある。

20年代刊にも入っている曲は「おもちゃのチャチャチャ」と「手をならましよう」である。20代担当者は、20名中今回調査した20名の45%を占めている。従って、題曲数が多いのは当然であるが、これらの曲は1900年代前後以降に作曲された新しい曲ばかりではなく、1911年の『児童小字報』に掲載された『かたつむり』や1908年代前後の曲など、幅広く年代の曲を選んでいる。

表9. 20代保育士が選んだ曲

にじ	6
おもちゃのチャチャチャ	5
次のおまわりさん	5
あめふりて道徳	5
アイスクリーム	4
おはげなんでないさ	4
涙の少女(水木真知)	4
しおねななな手あたま	3
そらあつたないのにな	3
どんな娘がすき	3
すまじおめら	3
ままじおめら	3
猫とパンパン	3
涙を大に流ましよう	2
ぼけ中のこどもたち	2
アイアイ	2
あひさんのお園	2
おまんておらいて	2
かたつむり	2
あひさんのお歌	2
懐いほめアヒガム	2
猫のむこう	2
赤い髪の子がサツ	2
赤・赤・赤	2
おめめさんそく	2
すずめがサレバ	2

一方、30代保育士は4名と人数が少ないが、1980年代以前の曲を選んでいる。30代保育士は22名と20代保育士に比べて多く、聴曲も20代保育士のように幅広い年代にあふれた曲を選んでいる。

40代保育士は14名で、比較的新しい曲もあるが全体としては、1980年代から1990年代頃に作曲された曲が多い。

表 9. 30代保育士が選んだ曲

おもちゃのチャチャチャ	7
手をとって歩きましょう	4
おぼけなてなひき	3
にじ	2
さんぽ	2
かえるのうた	2
あめふりくまのこ	2
アイスクリーム	2
世界の中でとももれが	2
どんと色かすき	2
リッツェスチューズ	2
バスさっそ	2
チューリップ	2
夢をかかえてどうえもん	2
うみ	2
真夜中のうた	2

表 10. 40代保育士が選んだ曲

手をとって歩きましょう	6
さんぽ	6
おもちゃのチャチャチャ	4
せんせいとあともだち	4
しあわせなる手をとってうた	3
だにうた	3
星のちのアルパン	3
犬のおまわりさん	2
世界の中でとももれが	2
はじめるのうた	2
リッツェスチューズ	2
おつかい盛りさん	2
はなはなとくる車	2

表 11. 50代保育士が選んだ曲

手をとって歩きましょう	3
かえるのうた	3
おもちゃのチャチャチャ	2
犬のおまわりさん	2
せんせいとあともだち	2
チューリップ	2
さんぽ	2

### 3) 経年変化の傾向による歌のむねの違い

「にじ」、「おもちゃのチャチャチャ」がどの経年の保育士も選んだ曲のなかにも入っている。

表 12. 保育歴 5 年以下の保育士が選んだ曲

にじ	3
おもちゃのチャチャチャ	2
あめふりくまのこ	2
アイスクリーム	2
おぼけなてなひき	2
手をとって歩きましょう	2
星のちのアルパン	2

表 13. 保育歴 5 年から 10 年未満の保育士が選んだ曲

おもちゃのチャチャチャ	6
にじ	3
世界の中でとももれが	3
あめふりくまのこ	3
手をとって歩きましょう	2
しあわせなる手をとってうた	2
はじめるのうた	2
かえるのうた	2
ごころの物語	2
手をとって歩きましょう	2

表 14. 保育歴 10 年以上・15 年未満の保育士が選んだ曲

犬のおまわりさん	5
手をとって歩きましょう	4
おぼけなてなひき	4
あめふりくまのこ	3
世界の中でとももれが	3
手をとって歩きましょう	3



から、保育士はローリー童謡が強い中年代曲、楽園しやうし曲を選んでいくことがうかがえる。

3歳児担当の保育士が選んだ曲の多くは、1950—60年代に作られたもので、ちょうど「ロビーの会」が開始された時期と時を同じくする。すなわち、これは保育所音楽教材保育内容「民間」の内容において、1—3歳児楽園曲では「国音曲、リズムやそれと合わせた体の動きを重しな。」「国歌を歌ったり、簡単な手遊びや歌を律う遊びを重しなだりする。」とあり、子ども達の体全体を使って音楽的表現を求めている。保育士はこの観点に沿って、比較的短く難解でない曲を選び、手遊びなど取り入れようとしている。さらに3歳児においては、「子どもたちに自ら歌い自ら音楽が。」「順当に作曲するのでなく想像のいく曲を作る。」というキーワードのキーワードが、「感情を豊かに」と書かれたロビーの会の作品が保育所保育内容「民間」の3歳児楽園曲に対する内容の解説にある「種々を表現の仕方や感情を豊かにする経験」として楽園の3歳児向けの子どもに歌わせるのにもちょうどよわしい曲であるということであるうか。

3歳児、4歳児、5歳児では、3歳児に「数字の歌」や「アイスクリーム」など1950年前後の歌が入っているが、他の歌は比較的新しく1960年代以降に作曲されたものが多い。それはアヴァンガードやコンプレクシオンの多様なスタイルやワーソングの萌芽の強い曲が多く、また全体的に1頁に収まるような短小曲が多くみられる。

保育士としては、3歳以上に必要とこころいわれる「アインシュタイン」の多くを選んでいくことと、保育士自身が好きな曲、懐かしい曲を子どもたちにも歌わせられると考えているので体にかと選ばれる。保育所保育教材保育内容「民間」の内容において、3歳以上にでは「国語の中で美しいものを中心に選んず流氷事に飽か、イメージを豊かにする。」「国語や国産品の中で、感動したことや伝えたい場ときを歌おう。」「国産品に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を律ったりなどする楽しさを味わう。」とあるように音響に親しむ中で感動す

るような曲選びが求められる。前述したように保育士は比較的新しい曲の中からアインシュタインを選び、保育士自身が好きな曲、懐かしい曲を子どもたちにも歌わせられることによって「民間」の内容を目標化しようとしていると考えられる。

このように、乳児と3歳児楽園、そして3歳児正児とは、保育士の選曲が明らかに異なっていることから、選りされた保育所保育教材の内容にある乳児保育と3歳以上3歳未満児の保育の異なる内容が3歳以上に区分けて選られたことと一貫することが見えられた。

一方、保育士の年代別子どもたちに歌わせる曲を母体とすると、30代34代の保育士の選曲の曲から選定曲まで、戦間期の音楽を選んでいくのに対して、40代になると1960年から1980年頃の曲を選んでいく。さらに50代になると1980年以降の曲を選んでいく。これらの選曲を見ると、1980年代およびそれ以降の曲はどの年齢層の保育士も子どもに歌わせた曲として挙げているが、40代では1980年前までの曲、50代30代はさらに新しい曲を選んでいくのは、自分たちが歌った歌であるからであろう。さらに最近の歌はリズムなどポップ調で日々から歌いながらいるのと取り合い曲もあり、保育士の年齢が上がると歌いにくく感じられて選らないうのであと思われる。

しかも、ポップ調のテンポの若い現代の曲が子どもたちの選曲方を育て、感情を豊かにするとはいえない。昔から懐かしい曲が残っていた曲は子どもたちの選曲方を育て、感情を豊かに育つことのできる場合が多いと考えられる。

次に、楽園曲での経年単数の経過による選曲についてみてみると、保育士歴の長い保育士は選曲について比較的傾向はないが、その中で楽園保育士たちが歌っていた歌を調査しているところから、自分自身のアインシュタインによる歌を選曲はされていないのではないかと考えられる。したがって、楽園曲が長くあるほど、懐かしい曲が選曲されているのは当然といえる。なかでも、平塚式などの

行事で歌われる事は保育士にとっても活動的であり、記憶に残るものとして子どもの歌わせたいとしているのである。

#### ④、まとめと今後の課題

今回の調査では、九州の4園でのみの調査で、この数字が全体を表すものではない。しかし、各保育園では、調査結果を保育資料による、新しい保育内容の計画やカリキュラムを立てるべく園内で研修会を開いたり、各論で行われている園外の研修会に参加し互々も方法を調べていることが認められる。そして結果として、保育内容「歌」も新しい保育所保育資料に写添した。

内容を取り入れたらものとなっている。さらに、考察で述べたように福岡の保育士は、乳児、3歳未満児が歌わせたい曲を、3歳以上児とは異なった観点から選曲していることが認められた。

今回の調査では、「園児との間でクイズで歌わせた曲」ではなく、「園児クイズで歌わせた曲」を記入してもらうことによって、保育士自身の選曲が分かるようにしたために、一方で、世代間による選曲の差も、保育士間の園さによる選曲の差も分かってきたりした。

今後は、実際に担当しているクラスで歌わされている歌と保育士自身の歌わせたい歌の選曲を

比較することによって、将来的な子どもの歌に因る選曲が分かるものと期待している。

そして、ともすれば「メロディ」から選んでくる『子どもの歌』と称する習慣をそのまま子どもたちに与えるのではなく、本当に、その歌が子どもたちの感性を刺激し豊かな情緒を築くことができるのかを吟味して与えるための研究が必要であろう。

そのためにも、『子どもの歌』の作曲者も、旋律に説かれるのではなく、またより芸術的にもいう大人の感性によって曲作りを行うのではなく、子どもたちのそれぞれの年齢に見合った適切な曲作りを求めたい。

本研究名称は保育所であるが、調査した保育所が〇〇保育園という形態であるので保育所(園)とし、西(園)図と記載することとした。また、保育所に在籍する乳幼児は園児という呼称を適用すること。さらに各保育所についても園という呼称を用いることとした。

#### 参考文献

厚生労働省告示第117号「保育所保育指針」(平成20年3月31日)

(2010年3月28日閲覧)